

特集

# 植栽3年目に思う

## ～元新聞記者の目で見るとプロジェクト～

プロジェクト開始から6年目を迎え、クロマツの成長とともに地域住民の意識にも変化が見られるようになってきている。スタート当初は海に行くことを躊躇していたという被災住民、高校生や大学生の中にもボランティア活動日に足を運んでくれる人が増えた。日経新聞論説委員時代から名取市に通い、プロジェクトを「観察」してきた小林省太氏が現場の今を語る。



新しい小学校ができること、まず1年生が入ってくる。毎年おちびちゃんが入学してきて、3年たつと1年生から3年生まで揃う——宮城県名取市の海岸林再生の現場を見ると、そんなふうに思うことがあります。植栽は2014年に始まり、植えられたクロマツは今年分まで含めて37ha・19万本になりました。苗は強風や乾燥、暑さ寒さにさらされながら、「月面」にも例えられる悪条件の土に根を張って、これまでほとんど枯れることもなく成長しています。

植える苗は平均30cmほどですが、一昨年植えられた3年生の中には2mに届く勢いで成長した健康優良児もいます。もちろんなかなか大きくならないものもあって、それはちよつとした環境の違いにもよるのですが、人間の背丈がさまざまなのと同じように、クロマツの個性であるのかも知れません。オイスカが関わる100ha全体に50万本の苗を植え終わるまでにおそらくあと4年、その時には6年生から1年生までが揃うことになりそうです。子どもに手が届くのはマツも人も変わりません。今年の5月に行われた植樹祭には地元の大生や高校生が数多く参加しました。若い世代がずっと見守ってくれることがクロマツの成長には欠かせません。その意味で、今後につながる頼もしい出来事です。大きくなってしまえば数年の生まれの差など関係なくなりますが、そうやって初めて、海岸林は再生されたことになる——この「小学校」を目にしながら、これからの長い年月に思いを馳せていきます。



2014・15年植栽地26ha全景

収支報告

調査事業に「将来ビジョン形成調査」を加え、全国各地の海岸林の好事例を調査。プロジェクト地における将来のあるべき海岸林とその管理の在り方を探っている。

単位：円

項目	内容	2015年度	累計(2011年～)
収入	募金・寄附金など	96,764,711	402,045,086
	民間助成金	4,260,000	39,721,360
	前期繰越金	54,310,510	—
合計		155,335,221	441,766,446
支出	育苗事業	18,095,622	108,921,377
	造林・育林事業	27,325,922	48,104,809
	調査事業	1,151,516	8,841,881
	啓発普及事業	11,100,331	52,097,434
	支出総額	57,673,391	217,965,501
	次期繰越金	49,308,161	49,308,161
特定費用準備資金※	2033年までの長期育林費用として	48,353,669	174,492,784
合計		155,335,221	441,766,446

※公益法人が、実施期間や内容などが明確な事業に対し、将来の計画的な実施のために積み立てる資金のこと。内閣府に提出した計画に基づいて積み立てられます。

2015年度実績

植栽済みの面積が年々増えることで下刈りなどの管理作業量も増えていく中、全国からのボランティアの皆さんの丁寧な仕事でクロマツの健全な育成を支えている。

内容	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	累計	
育苗	クロマツなど播種数	—	97,500	72,500	87,250	89,856	347,106粒
	植栽面積	—	—	—	15.67	9.82	25.49ha
植栽	植栽本数	—	—	—	80,182	51,234	131,416本
	雇用	育苗・造林・育林における雇用量	—	187	658	1,402	1,206
市民参加	現場ボランティア数	—	—	262	1,365	1,691	3,318人
	現場視察者数	263	580	837	567	577	2,824人
	活動報告会参加者数	523	4,772	5,900	4,692	4,996	20,883人
	活動報告会開催数	4	43	28	30	30	135回
メディア	国内新聞・雑誌・テレビ・ラジオなど紹介回数	24	39	27	33	38	161回



プロジェクト担当者の身長(183cm)を追い抜き、大きく成長している苗木



上/植樹祭に参加する地元の高中生  
下/キツネやタヌキに見つからないようクロマツの根元に隠すように鳥がタマゴを産む。多様な生物を育む森としても重要な役割を果たす海岸林